



▲心とからだを育てる学校給食

栄養教諭の食育授業は

答弁 = 2学期以降も授業を計画



岡田 千賀子

答弁 松田教育長

- ①「早寝早起き朝ごはん」の運動を始めてからの朝食摂取率の変化は。
- ②朝食摂取と学力テストの関係分析は。
- ③朝食を食べてこない子ども・保護者への対応は。
- ④食育を推進する指導体制の要として「栄養教諭制度」が開始。食育授業は、
- ⑤総合学習の時間は、ゆとり教育の見直しの中、削減されるのか。食育の授業への影響は。
- ⑥中国産食材の使用は。
- ⑦各小学校の給食現場から整備・設備の要望は。
- ⑧早期に中学校給食を実施することを前提にしている説明会の状況は。

- ①平成17年から実施しており、小・中学生ともに摂取率は向上している。
- ②朝食を毎日食べる子どもほど学力が高い傾向にある。
- ③家庭啓発を継続する。
- ④1学期は一年生に食育の授業を行い、2学期以降も計画している。
- ⑤中学校は選択教科の関係で削減はあるが、小学校ではすでに総合の1時間を英語活動に使用しており、削減はない。食育の授業への影響はない。
- ⑥使用していない。
- ⑦随時点検を行い、関係者の意見を取り入れ、実態の把握に努め、必要に応じて改修や設備の購入、修理を行っている。

- ⑧PTA役員、教職員、学校給食会、民生児童委員会に説明した。引き続き、保護者会でも行う予定ですが、なお、「法律に給食の実施に努めなければならない」と規定されている。「全国各地の実施率について初めて知った」、また、「早期実施してほしい」との声もあった。
- 広告物の整理統合は**
良好な景観形成を進める
- 答弁 木村理事
是正指導を実施中
- 月に一度、シルバーに委託して違反の張り紙・立て看板などの撤去に努め、県との合同パトロールも年一回実施し、是正指導も行う。



▲雑草の土山駅南テルパン跡地、高木の植樹を

温暖化ガス削減対策は

答弁 = 今後検討していきたい



緑生会
河南 博

答弁 柘田理事

- 二酸化炭素など、温室効果ガスの排出量を早急に、そして大幅に削減しないと、地球温暖化が進み、海面上昇や洪水、干ばつが起り、生態系が激変する、と警告している。
- 県では、生活の中で発生する温暖化ガスの分だけ「木を植える制度に取り組み」と、新たな施策を紹介し、連携に向けた行動を呼びかけている。
- 本町としても、県との連携は不可欠である。温暖化ガス削減の方法としては、
- ①温暖化ガスを排出しない身近なエネルギーの一つである、太陽光発電の導入を図り、町としても補助事業として、予算措置を講じる。

- ②ヒートアイランド現象の防止、温暖化ガスの削減に効果のある、植樹、駐車場の緑化、校庭などの芝生化を。
- ③コミュニティバスが望めない現状では、温暖化ガスや騒音を出さない交通手段として、ペロタクシー（自転車タクシー）の導入を図る。
- ④通勤・仕事における自転車の利用促進を図ること、温暖化ガスの削減、職員の健康増進などとともに、毎年税金を投入し職員の駐車場として借り上げている場所が不要となり、その分福祉に充当できる。
- ⑤、前向きに取り組むべきです。

- ①太陽光発電については実用化に向けての初期費用などを勘案し、もう少し安価であれば、今後検討する。
- ②植樹、駐車場などの芝生化については、県民緑税との関係で、スポーツクラブ21はりがドームの周辺に植栽を、新島企業でも駐車場の芝生化を展開している。
- ③自転車タクシーについては、NPO法人などが実施する場合は協力したい。
- ④職員の通勤、仕事における自転車の利用については、健康増進、温暖化ガス削減に効果があると理解しているが、職員駐車場借り上げについては、買収の努力を行う。